

電源コード断線による事故

事故の概要

【事例①】ドライヤーの電源コードから火花が散って、腹部にやけどを負った。

【事例②】電気あんかが急に熱くなり、ふとんが焦げた。

【事例③】電気毛布の電源コードから発火して住宅全焼し、1人がやけどを負った。

事故の原因

【事例①】ねじれや折り曲げなどの繰り返しで、芯線が断線して異常発熱し、ショートしたものです。

【事例②】収納時に電源コードを本体に巻き付けていたことから、芯線が断線してショートしたものです。

【事例③】電気毛布の電源コードをベッドの脚で踏んだ状態で使用していたため、コードの芯線が断線してショートし、周囲に延焼したものです。



【再現実験】

ショートとは？ 電気が流れた状態で、極性が異なるコード(電線)の中の銅線が接触すると、大量の電気が流れるため、コードが発熱して発火する可能性があります。この状態をショート(短絡)といいます。



事故防止のために

- ◆無理に曲げたり、ねじったりしないでください。
- ◆傷つけたり、重い物を載せたり、ドアなどに挟み込んだりしないでください。
- ◆束ねないでください。
- ◆先端の電源プラグを持って引き抜いてください。
- ◆本体に巻き付けしないでください。
- ◆取扱説明書をよく読んで、正しく使用してください。

